

道

この一本の道は夕日にあはあはと白くかがやいてゐる
左側はコンクリートのひややかな倉庫の壁
一人の青年と一人の少女が話しながら歩いてゐる
右側には河がゆつくりと流れてゐる
二人は長い影をうしろに残しながら
目を日に射られてまぶしさうに
顔は白く美しくほほゑみながら
大股に歩いてゐる
愛についてたのしさうに希望にもえて話してゐる
あと何時間かたつて夜になつたら
二人はどこかの街角でさやうならを言ふだらう
この道は暗くなり街燈にかうもりがまっはりつくだらう
河はどんより重くしづみこみながら流れるだらう
倉庫はまっ黒い怪物のやうにそびえるだらう
二人は一人づつになるだらう
その一人づつがどんなに今日の愛を保たうと思つても
わけのわからない力がすぐそれをぶちこはしてしまふだらう
たつた一人の心の中で
青年も 少女も
自分の心のきびしい存在に気づいておびえるだらう
この一本の道は夕日にあはあはと白くかがやいてゐる